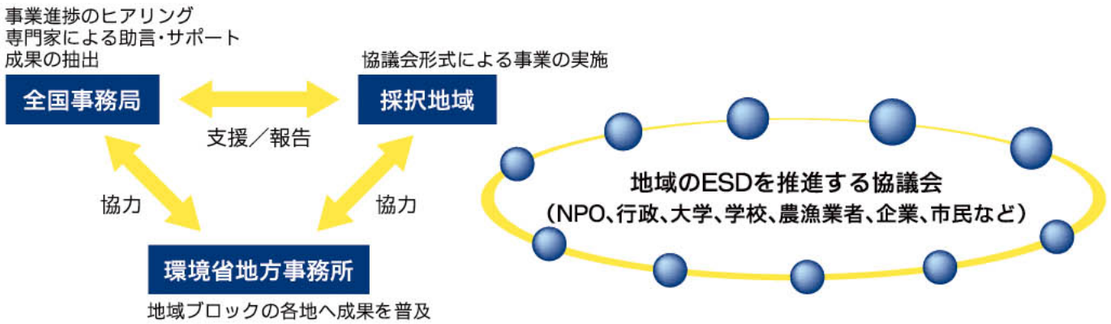
国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業とは？

事業の概要

本事業は、18年度、19年度の二段階で実施するもので、18年度は10地域が採択され、地域でESDを推進するための体制を作り、次年度に向けたアクションプランを策定しました。19年度は、18年度に作成したアクションプランのもとで、多様な主体の協働により地域に根ざしたESD事業（講座プログラムやプロジェクト等）を実施することが求められています。



事業年度	ステップ	実施内容
18年度	計画フェーズ	地域の多様な主体と共にESD推進協議会を設置し、ESD事業を検討
19年度	実践フェーズ	前年度検討した事業内容を地域で実践

18年度の主な成果

- 全国10箇所の地域で、地域の課題や状況を見据えた、ESDの具体的プランが生まれました。
- 各地の検討プロセスを通じて、ESD事業を地域で進めていく際に発生するさまざまな課題、解決に向けた取り組み、大切なポイントなどが抽出されました。
- 地域でESDを推進する上で、どのような外部からのサポートが有効か、その成果と課題が抽出されました。
- 地域ブロックごとに実施されたESDの普及活動（パンフレット、セミナー等）により、地域に分かりやすい形でESDの広報活動が実施されました。

今後の予定

19年度は前述の通り、採択地域の教育の実践フェーズです。実際にESDをすすめていく上で、さらにESD実践の課題、ポイント、効果が具体的に抽出されるでしょう。また新規の地域募集も予定しており、さらに多様な取り組みが生まれることが期待されます。19年度はそれらの内容やプロセスを専用のウェブサイト（http://www.env.go.jp/policy/edu/desd.htm よりリンク）で公表していく予定です。

国連持続可能な開発のための教育の10年（2005～2014）

きっかけは2002年、ヨハネスブルグサミットでの日本からの提案でした。国連総会でその実施を決め、世界中でESDに取り組もう！という国連のキャンペーン「ESDの10年」が2005年よりスタートしています。

平成19年3月

●発　　行：環境省　総合環境政策局　環境教育推進室
www.env.go.jp/policy/edu/

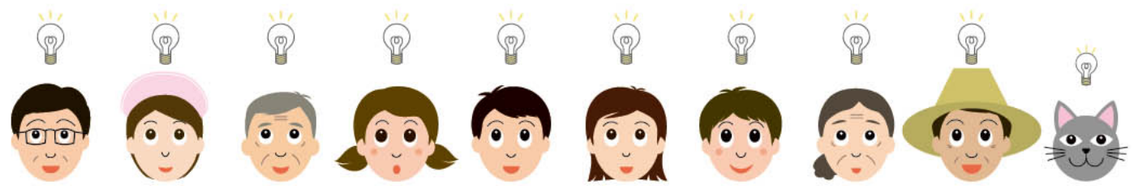
●全国事務局：NPO法人　持続可能な開発のための教育の10年推進会議
www.esd-j.org/

R100 古紙100%の再生紙と大豆インクを使用しています　PRINTED WITH SOY INK

国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業

ESDをはじめる×すすめるための 10のヒント

環境教育からひろがる、持続可能な地域づくりと人づくり



地域に根ざしたESDの「内容」と「しくみ」を示すモデル地域の取り組み

ESDとは、「持続可能な開発のための教育／Education for Sustainable Development」の略です。持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育です。
日本では、持続可能な地域づくりに発展するＥＳＤが重視されており、そのモデルとしていくつかの地域の取り組みを示すことが本事業の目的です。採択された地域では、実践を通じて、ESDの具体的な活動の「内容」と、継続するための「しくみ」づくりの検討に取り組みます。そして、そのプロセスを公表することで、全国各地で様々な主体がESDに取り組む際の、アプローチ・モデルを示すことを目指しています。18年度は全国10地域が採択され、地域に根ざしたESD事業の検討を進めてきました。

環境省

地域の人が語る，学びあいの地域づくり，人づくりに大切なこと

75箇所の応募から選ばれた10の地域。環境省ESD促進事業の18年度は地域の特徴，課題を背景に，多様な立場の人たちが協議会を作り，地域のESD事業を模索してきました。その結果生まれた10通りのESDはとても個性的。何がESDなのか？ どうすればESDなのか？ 現時点では，はっきりとした正解がないテーマだけに，全国の多様な取り組みや，そこに至るプロセスには，今後みなさんがESDに取り組んでいく上で，学ぶべき点があると思います。ここでは，各採択地域が検討を重ねた結果たどり着いた，ESD事業の概要（19年度実施予定）と，18年度の事業計画検討フェーズを通じて得られた，ESDをすすめる上で大切だと感じられた地域の実践者の声をまとめました。

1 北海道 石狩郡 当別町

地域の特徴：大都市に隣接する農村地帯

食に根ざした地域づくりで，地域の価値とライフスタイルを見直す

地域の市民、農家、行政、NPO、企業、教員が協力し、生産から販売までを子供たちが学びながら関わる「チルドレンズファーム」の実施や、都市と農村の交流による学びの場「ライフスタイルファーマー塾」の開講など、「食」や「農」をキーワードとした「学び合い」事業に取り組みます。

地域発　ESDをすすめるヒント

- 役場職員へ協議会メンバーのボランティア参加の公募を行うことで、役場全員への周知に役立ちました。
- ESDが何？という正解を求めるのではなく、ESDは「持続可能な社会に向けた取り組みのプロセス」と整理しました。
- リアリティーのある教育活動を行うために、地域のポテンシャル（人、もの、金）を十分活かした活動にすることが大切です。

問合せ先●NPO法人 当別エコロジカルコミュニティー●担当：山本
E-mail：mikihiko-y@nifty.com

2 宮城県 仙台広域圏

地域の特徴：環境教育先進地域をつなぐ広域圏の連携

海，山，まちを繋ぐ，広域連携による持続可能な地域づくり

仙台市、気仙沼市、大崎市田尻地域などでの環境教育やESDにつながる学習活動の拠点をむすび、仙台広域圏での学びあいのしくみを構築し、各地の活動を活性化しています。また、広域圏全体でESD月間を決め、各地で連動したイベントやセミナーを開催し、広く圏内へのESDの普及を進めます。

地域発　ESDをすすめるヒント

- ESDの地域連携には、まずは各地域の実践内容や特徴（長所）について時間をかけて学びあうことが大切です。
- ESDの地域拠点づくりには、それぞれの活動実績を活かすことと、パートナーシップのルールを定めることが大切です。
- 継続的な連携のためには、調整連携機関の存在が必要です。

問合せ先●国立大学法人 宮城教育大学●担当：仙台広域圏事務局
E-mail：RCE-miya@adm.miyakyo-u.ac.jp

3 江戸前の海（羽田から船橋にいたる東京湾奥部沿岸地域）

地域の特徴：東京湾を面で結ぶ沿岸地域

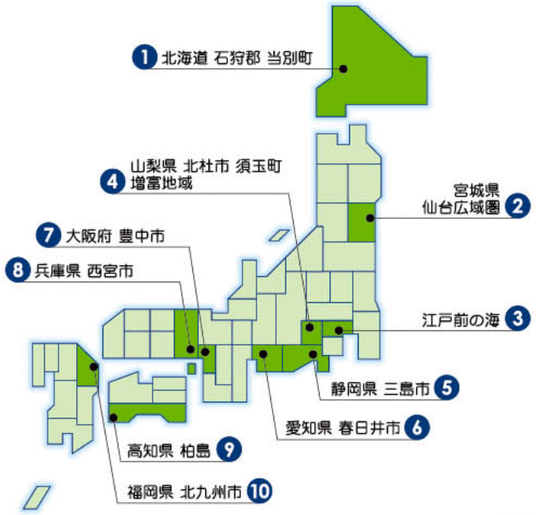
江戸前の海，学びの環づくり

東京湾沿岸域の博物館、NPO、教育関係者、漁業従事者などと一緒に、「寺子屋」（ワークショップによる理解の共有）を軸に「耳袋」（体験の共有）と「カフェ」（知識の共有）により、持続可能な沿岸海洋の利用のありかたを考えていきます。また、この実践を通して、学校・博物館を拠点に地域でESDを実践していく「江戸前ESDリーダー」の養成にも取り組みます。

地域発　ESDをすすめるヒント

- 「持続可能な開発」やESDという言葉は一般にわかりにくいので、地域の人には、もっと平易な言葉への置き換え（たとえば江戸前なら「ESD」→「学びの環づくり」）が必要だと感じます。
- 「これからESDを始めましょう」と呼びかけるより、東京湾奥部で行われているさまざまな環境教育活動にESDの概念をかぶせて広げる、活動をつなげていくアプローチが、活動に持続発展性が生まれると思います。

問合せ先●国立大学法人 東京海洋大学 海洋科学部●担当：川辺
E-mail：kawabe@kaiyodai.ac.jp



4 山梨県 北杜市 須玉町 増富地域

地域の特徴：都市近郊の過疎高齢化の農村

都市と農村の交流と学びあいが培う，持続可能な農村地域開発

過疎高齢化により、遊休農地の増大、山林の荒廃等が進んでいる須玉町増富地域において、農・森林・グリーンツーリズム・自然エネルギーなど、持続可能な農村社会発展に有効なテーマを掲げ、NPOと地域、その他多様な組織が連携し、都市と農村が多面的に学習交流しながら、地域発展に取り組みます。

地域発　ESDをすすめるヒント

- ESD事業に対する協力要請を行い、市長の全面的協力支援を得ること、また県、市、大学等、日頃の活動において連携をしている組織に対して改めて事業の説明を行い、組織的な連携協力を得ることはとても重要です。
- 多様な主体の連携を確実に進めることのできるコーディネーターの知識・能力向上が大切であり、そのコーディネーターの最低限の人件費の確保も重要です。

問合せ先●NPO法人 えがおつなげて●担当：曽根原
E-mail：inaka@athena.ocn.ne.jp

5 静岡県 三島市

地域の特徴：パートナーシップによる環境再生が活発な地域

地域の環境・まちづくりの人材を育む「みしまESD環境まちづくりゼミ」

地域の小中高校や県内外の大学と連携して、地域の環境・まちづくりをテーマに、「学ぶ」→「体験する」→「活動する、実践する」→「発表する、伝える」といった、一連のプロセスからなる若者を中心に多様な世代が関わる人材育成事業を総合的に実施し、ESDのプログラムの体系化を図ります。

地域発　ESDをすすめるヒント

- 5年先、10年先を見据えた中長期的な「持続可能な活動のビジョン」を関係者間で共有することが重要です。
- 多様な団体によるネットワーク型組織の効率性を発揮して事業を進めるためには、推進役、調整役となる専門性の高い中間支援型の団が必要です。
- ESD事業の実施を通じて地域力を向上させるためには、実践的な学びが重要であり、「研修」と「実践」のバランスが大切です。

問合せ先●NPO法人 グラウンドワーク三島●担当：渡辺
E-mail：mishimagw@ybb.ne.jp

6 愛知県 春日井市

地域の特徴：周辺に自然が残る新興住宅地域

人・自然を尊ぶ心の育成，絆再生プロジェクト「かすがいKIZUNA」

小学校区を拠点として、フィールドワークによる体験と教科学習を連動したカリキュラムに親子で参加する「KIZUNAラーニング」。また、そこで発見した自然の課題／重要性を、学区に住む多様な住民（幼児／高齢者／障害者など）への発信や共同調査・観察を通じて、多様な人々との共生を学ぶ「KIZUNAコミュニティ」を進めます。

地域発　ESDをすすめるヒント

- PTA役員の理解を得て、PTA役員が保護者に対して草の根的に、ESDの概念を伝達してくれたこと。
- 使命感をもってESDを推進していくためには、自らの役割と責任を認識するうえで、多様な主体が企画段階から参画したことがよかった。
- 事業に関わる主体が既存の思い込みや先入観に固執せず、お互いに視野を広げて取り組むことが大切。

問合せ先●株式会社 日立製作所●担当：杉山
E-mail：yasuhiko.sugiyama.vw@hitachi.com

7 大阪府 豊中市

地域の特徴：環境・国際交流・人権・福祉など異分野の連携が進んでいる地域

地域を有機的に結ぶ「ESDとよなかリソースセンター」

「ESDとよなか」のこれまでの取り組みをさらに推進するために、地域の様々な人たちや団体が有機的につながるようなコーディネートをするために、地域で活用できるリソース（人材、団体、場所、プログラム等）を集約し、つなげる機能を持つリソースセンターを模索し、構築します。

地域発　ESDをすすめるヒント

- 特定の中心がないプラットホームをつくること（多様な分野、セクター、機関、世代の参加を意図的に行うため）
- そのための「手間のかかる」協働を地道に進めること（多くの対話と相互理解につなげるために）
- ESDが、関わる人・団体のそれぞれのミッション達成につながることが理解できるように工夫すること
- あまり無理がなく、楽しめること

問合せ先●財団法人 とよなか国際交流協会●担当：榎井
E-mail：toyonakakokuryu@tcct.zaq.ne.jp

8 兵庫県 西宮市

地域の特徴：環境学習が活発な地域

環境学習を通じた持続可能な社会システムの構築

①市民向けの「地域コーディネーター」研修プログラムの実施 ②教員へのESDの普及とESDのカリキュラムづくり ③エコカード活動とエココミュニティ会議をつなぐESD活動システムの開発 ④ESD普及のためのイベントの実施と情報提供など4つの事業を通して、環境のみならず様々な分野の人々が相互に学び合い、育み合う持続可能な社会に向けて取り組みます。

地域発　ESDをすすめるヒント

- 地域の様々な主体が協働するために、まずはお互いの活動の目的や内容、課題などについて知ること。
- 「何が問題なのか」を知ることが大切なのではなく、それらの課題を通して「自分たちは何をすべきか」「次の世代に何を残さないといけないのか」といったことを自らが考え、気づくというプロセスが大切であり、またその「気づき」を共有すること。
- メディアを活用するなど、効果的な情報発信および情報収集。

問合せ先●NPO法人 こども環境活動支援協会●担当：長手
E-mail：kodomo@leaf.or.jp

9 高知県 柏島

地域の特徴：豊かな自然環境と多数の観光客が訪れる島

環境学習から始まる持続可能な「里海づくり」

高等学校ー大学連携や地元小学校などによる地域環境学習活動を通して、柏島の自然環境、生活文化、経済性などについて、島外からの訪問者が学び、かつ人に伝えることができる人材育成の場を構築します。また、里海をキーワードとして活動している日本各地の大学や団体などと協力連携を目的とした里海シンポジウムの開催、柏島ローカルルールの発見と発信にむけたサポートなどを行います。

地域発　ESDをすすめるヒント

- 地元の教育機関や自治体等への粘り強い説明、情報提供、協力依頼が大切です。
- 柏島住民との日頃のつきあいのなかでの連絡と協力依頼。
- 「ESDとは何か？」をわかりやすく地域に伝えることが大切。それは言葉の問題ではなく、ESDの事例を具体的に示すことや、実際にその地域にあてはめ、ESDにより地域で何が良くなるのかをイメージさせることです。

問合せ先●NPO法人 黒潮実感センター●担当：神田
E-mail：kuroshio@divers.ne.jp

10 福岡県 北九州市

地域の特徴：公害克服と市民運動の歴史を持つ都市

市民協働による環境・経済・社会活動の実践統合型ESD

学校、大学、NPO、地域団体、企業、行政など40数団体からなる北九州ESD協議会は、北九州市が目指す「世界の環境首都」実現のために、現在行われているさまざまな活動にESDの視点を取り入れ、活動をつなげていくために、ESDの勉強会、ワークショップ、ファシリテーターの養成を行い、100万市民へのESD普及活動を展開します。

地域発　ESDをすすめるヒント

- 地域の目標があること（「世界の環境首都」の構築）
- 地域の背景を生かすこと（市民（特に女性）運動がきっかけとなって、産官学民協働で大気汚染問題を解決したという歴史）
- 地域の資源を生かすこと（活発な市民団体活動、さまざまな教育施設、人材など）
- 現在の活動を基盤にすること（協議会のメンバーに大きな負担をかけず、「無理なく」「楽しく」参加し、現在の活動にESDの要素をプラスする）

問合せ先●財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム●担当：高原
E-mail：kfawesd@song.ocn.ne.jp

各地域の取り組みに関しては http://www.env.go.jp/policy/edu/desd.htm にて順次紹介していく予定です。

環境省ESD促進事業に関する概要は裏面へ▶